

冷媒配管の規格制定

30社体制で普及促進

アルミ配管設備工業会（入江孝弘代表理事）は、アルミ冷媒配管の規格を制定し、一般仕様書『冷媒用被覆アルミニウム合金管 APEA1001・2018』をまとめた。規格制定により軽量で廉価なアルミ冷媒配管の普及を図り、将来的には国土交通省の公共建築工事標準仕様書への規格の適用も目指す。工業会にはゼネコンやサブコン、電機メーカーなど新たに18社が入会。業種横断的な30社体制で活動を進めていく。

規格は工業会の冷媒用被覆アルミニウム合金管規格制定委員会が9月1日に制定した。会員各社で取り組んでいたアルミ冷媒配管に関する知見を持ち寄りまとめたもので、入江代表理事は「一般仕様書を公開することでさらに知見を集めて今後改訂を進めていく」と説明した。

国内の冷媒配管は銅管が99%以上を占めるが、高まる銅

需要を背景に価格高騰などが懸念されている。今後首都圏を中心に最盛期を迎える現場が多いことから「銅管の不足や高騰を懸念してアルミ配管を取り入れていきたいという声もある」（入江代表理事）。このため工業会としてはアルミ冷媒配管の仕様の標準化により、まずは民間建築工事で普及を図り、その後は公共建築工事での活用に向けて標準

仕様書への適用を視野に入れる。さらに、アルミ冷媒配管用分岐継手やメカニカル継手、ろう付け用継手などの規格制定へ「継手規格制定委員会」も立ち上げる予定。17日に開かれる社員総会では会員各社へ委員会への参加を要請する考えだ。また、冷温水配管への展開も図る。

これまで工業会の会員企業は12社だったが、第2回の入

会募集を実施し、新たに18社が加入した。9月の理事会では代表理事に入江氏が承認され、10月1日付で就任した。新規入会した18社は次のとおり。

〈正会員〉朝日工業社▽飯田軽金▽大林組▽光陽産業▽新日本空調▽ダイキン工業▽東洋フイテック▽日本管材センター▽橋本総業▽パナソニック▽富士機材▽不二ライトメタル▽三菱電機▽UACJ 押出加工▽菱機工業
〈賛助会員〉イシグロ▽竹中工務店▽東洋機工

